

科 目 名	化学療法学特論				
担 当 教 員 名	教授 田中 基裕 准教授 小幡 徹	単位数	講義 2	配当学期	秋学期
講 義 の 概 要	<p>がん化学療法の進歩に伴い、がん患者の予後は大きく改善されてきた。しかし、個々の薬剤の効果については未だ充分とは言えない。本講義では、現在臨床に供与されているがん化学療法剤（抗がん剤）について、その開発の経緯を解説する。がんの発生から増殖・転移に関与するメカニズムがタンパク質・遺伝子レベルで明らかにされ、がん細胞における分子レベルの特定標的を特異的に攻撃する分子標的治療剤が上市された。この分子標的治療薬は、従来の抗がん剤の弱点を補った新しいタイプの抗がん剤で、がん患者の延命に大きく貢献している。しかし、分子標的治療薬が開発研究、臨床研究を経て医療現場に用いられた結果、従来の抗がん剤とは全く異なった副作用発現が数多く報告されている。この問題をクリアするための新たな分子標的治療薬の研究開発の現状と問題点を、従来の抗がん剤と対比しながら解析・考察することにより、新たな抗がん剤開発の手法、抗がん剤の今後の動向について修得する。</p>				
講義の内容・スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗がん剤の基礎研究と臨床試験 (I) 2. 抗がん剤の基礎研究と臨床試験 (II) 3. 抗がん剤の基礎研究と臨床試験 (III) 4. がん化学療法の新しい分子標的 (I) 5. がん化学療法の新しい分子標的 (II) 6. がん化学療法の新しい分子標的 (III) 7. DDS (Drug Delivery System)を応用したがん治療 8. 抗がん剤の耐性とその克服 9. 抗がん剤の作用機構と感受性規定因子 10. がん免疫療法の新たな標的 11. がんの遺伝子治療の現状 12. 造血幹細胞移植と大量化学療法 13. 光線力学的治療法 14. 放射線治療の進歩 15. 分化誘導療法 				
評 価 方 法 (基 準 等)	レポート (60%)、口頭による質疑応答 (日本語・英語) (30%)、及び出席状況 (10%) による総合評価				